

## 「エルサレム教会に対する迫害」

2016年04月11日

**使徒言行録 8章1節b~8節。**その日、エルサレムの教会に対して大迫害が起こり、使徒たちのほかは皆、ユダヤとサマリアの地方に散って行った。しかし、信仰深い人々がステファノを葬り、彼のことを思って大変悲しんだ。一方、サウロは家から家へと押し入って教会を荒らし、男女を問わず引き出して牢に送っていた。

さて、散って行った人々は、福音を告げ知らせながら巡り歩いた。フィリポはサマリアの町に下って、人々にキリストを宣べ伝えた。群衆は、フィリポの行うしるしを見聞きしていたので、こぞってその話に聞き入った。実際、汚れた霊に取りつかれた多くの人たちからは、その霊が大声で叫びながら出て行き、多くの中風患者や足の不自由な人もいやしもらった。町の人々は大変喜んだ。

ステファノは、人々が崇めて止まないエルサレム神殿に神はおられない、あなた方は神が遣わした正しい主イエスを殺したと語った。その弁明に激怒した人々はステファノを石打の刑で殺した。この日から、エルサレム教会は迫害を受けるようになった。

聖霊降臨によって誕生したエルサレム教会は持ち物を共有し、必要に応じて分かち合う、主イエスが示された愛が息づく群れであった。人々は教会に好意を持ち、加わる人が日々非常に増えていた。しかし、ステファノの殉教以来、この状況は反転した。ユダヤ教徒たちは、教会に集う信徒たちの信仰は自分たちが正当とするものとは違うと理解し、迫害を加えるようになった。信徒たちは迫害を受ける状況に変わった危機の中で、信仰に基づき勇気ある弁明をしたステファノの殉教を悲しみながら、丁寧に葬った。

使徒たちを除く信徒たちは迫害を逃れ、ユダヤ、サマリア地方に散っていった。エルサレムから北に向かって逃れたのである。迫害を受けた時は逃れることである。マルコ福音書7章には、主イエスは「イエスはそこを立ち去って、ティルス（現レバノン）の地方に行かれた」と記し、異教の地で、病に苦しむ幼い娘を持つ母親の懇願に応じ、娘を癒した出来事を伝えている。この時、主イエスは迫害を逃れてティルスに立ち去ったものと思われる。また、ヨハネ福音書10章39節に「そこで、ユダヤ人たちはまたイエスを捕らえようとしたが、イエスは彼らの手を逃れて、去って行かれた」と書かれている。主イエスも迫害を受けた時は逃げて、身の安全を計っている。同じように、信徒たちはユダヤ、サマリア地方に逃れた。賢明な避難であったと言えよう。

ところが、サウロ（パウロ）は家から家へと押し入って教会を荒らし、男女を問わず引き出して牢に送り込んだ。サウロによる迫害の嵐が吹き荒れた。

迫害を逃れた人々は、行く先々で福音を宣教した。迫害が宣教地を広げていった訳である。食事の公平な分配をするために選ばれたフィリポはサマリアの町に下り、そこでキリストを宣べ伝えた。彼は不思議なしるしを行ったので、人々はこぞって聞き入った。事実、彼は汚れた霊に取りつかれた多くの人たちから悪霊が大声で叫びながら出て行く奇跡を行い、また、多くの中風患者や足の不自由な病人もいやした。不信仰と蔑まれたサマリアの町の人々は逃れて来た信徒たちの宣教活動を受け入れ、大変喜んだ。

避難して行った町々での宣教は大いに進展し、新しい局面を迎えることになった。迫害はマイナスばかりでなく、宣教を展開するプラスをもたらしていった。彼らは迫害に屈することなく、主イエスの福音をひたすら伝え続けた。